

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.22 2009年9月17日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。神学校を吹き抜ける風もすっかり秋の空気。目黒ではさんま祭り。屋上に七輪を出して焼きたいところですが、そうもいかず、今年はまだ一度も賞味していません。先日スーパーで買った好物のいちじくは、はるか少年の頃、朝早く自宅の畑に走って行き、口の端をかゆくしながら食べた青臭い味でした。「イエス君はいとうるわし、... 秋の夜、空に澄む、月よりさやけし」(讃美歌166より)

校長 関野祐二

● 間口は広く、本質はしっかり

例年なら後期からの聴講希望や問い合わせが数十件あるはずなのに、今年は政権交代に気を取られてか十件足らず。どうなることかと心配しましたが、夏休み明け初日の8月31日を台風接近でやむなく(連絡電話の向こうでは安堵)臨時休校としてから、嵐が献身者を呼び込んだかのごとく、願書持参や問い合わせが続々。8名が後期からの新規聴講を許可されました。今回の特徴は全員が30代~40代、そして、台湾・韓国・日本人の多彩な顔ぶれであること。もちろん、本校のウリでもある(元気で明るい!)福音的な超教派というスタンスは堅持されています。聖書を誤りなき神のことばと信じ、正しい教理と生活を兼備しつつ(神と隣人を心から愛することですね)、しっかり伝道と証しができ、健全な教会形成を推進できる器の養成。本校の目的であるこの中心点を共有しつつ穏健さを保つなら、教派や国籍の相違は互いの豊かさにつながるはず。そういえば、聴講面接の控え室で、その日初めて会ったはずの面々が、すっかりうちとけ語り合っていましたっけ。先輩方、吹き込む秋風をしっかり吸い込み、温かく受け止めてくださいね。

● 図書室改革進行中

立ち後れていた図書室の整備は、事務員方の尽力で着々と進行しています。6月の補正予算で、図書購入支出を50万円に増額。各先生方から希望アンケートをとり、今、本格的に書物を買いはじめています。そうは言ってもスペースの問題があるので、事務員コンビはこの8月、意を決して図書室蔵書整理を敢行。創立以来一度も開かれていないような本や、どうみても賞味期限切れの本を廃棄本、ダブっているものを保管本に回して通称お仕置き部屋(旧ボイラー室)へ移動。屈強な男子寮生たちの助けを借りました。空いた棚を有効利用して配置を変え、晴れて新着本を並べる予定。キリスト教書籍はすぐ絶版になるのですが、リサーチが特技というY事務員は、熟練した検索手腕を駆使し、どこで見つけるのか希少本を探してくるのです。個人では買えないものも続々(ぽつぽつ)入荷しますので、ぜひ在校生は(卒業生も)有効利用してくださいね。

先日の夜おそく、我が家の玄関扉越しに図書室の照明が煌々^{こうこう}と。もしや最終点検洩れかと思いきや、あれれ、この時間からレポート資料ですか? 同じ建屋に図書室がある方々は得ですね。

● 学期休みもそこそこに

このレターがお手元に届く頃、聖契神学校は前期授業が最終段階。学生たちには試練の期末試験期間です（試験なしの科目はたいていレポート攻め）。宿題のない（はずの）学期休みを経て、10月12日（月）から後期開始（ハッピーマンデーとかで月曜の休みが多いためこの日は返上）。その週の15日（木）から、いよいよ特別セミナー「ファミリーミニストリーⅠ」が始まります。定員近くの参加者が与えられたので、きっと充実した学びになるでしょう。10月4日夜～5日に行われる学生リトリートでも、講師に杉本玲子先生を招いてプレ・セミナーをやるそうですよ。

筆者の担当する通年の組織神学。クラス学生6名と話し合った結果、今年度は「組織神学卒論」（仮称です）を導入することに。聖書論～終末論を詳細に学んでいくと、自分にとって関心のあつ分野、深めてみたいテーマが自然と出て来ますから（出て来ない人もたまに）、約1年をかけてちょっと大きなレポートを作成してみようとの自論見です。もちろん、従来の毎週レポートは負担を軽減。前期最後に中間発表をし、後期に本格的取り組みという算段ですが、はたしてどうなるでしょうか。こんなことなら、もっと早く... と今頃言っても遅いですよ。発表会は公開かな。

● オープンキャンパスにおいでなさい

今年もめぐってきました、「献身者の集い・公開授業・オープンキャンパス」。10月24日（土）の朝チャペル（午前10時）から始まります。「最近、コーチョーのチャペル担当が少ないのでは？」との陰の声に対抗し（そりゃ、担当クラスの数からすれば少ないでしょうが、突発の穴埋めなどいろいろあるのですよイワケカラ）、今回は自ら担当することに。M教師のブートキャンプや、K兄のマジックみたいな派手な呼び物は無理ですが（まったく、スゴイ神学校ですね）、特別な機会にふさわしいみことばの取り次ぎができれば、と願っています（持ち味を生かしすぎて会衆に小テストを課さないよう肝に銘じて）。公開授業は今年度開講の「霊性の神学Ⅱ」と、いつもながらの「新約緒論」。二つのクラスともたまたま今年は履修者が少ないので、在校生のサクラ大歓迎です（当てますよ）。特に霊性クラスは教師曰く、諸神学校において前人未踏に近い領域なので、ぜひこの機会に体験してみてください（ワークショップがあるかも）。新約緒論は、「聖書が誤りなき神のことばであるとは」というテーマの学び。それほど専門的ではありませんのでご心配なくどうぞ。

学生会主催の昼食会は、今年も証しが楽しみです。学びはたいへんけど楽しい、年齢や背景はバラバラだけど仲がいい、そんな本校の雰囲気ぜひ味わってください。午後の特別講演会、やはり今年は霊性でいきます。新任の吉川直美先生による、「『霊性の時代』に生きる教会」。個人的事柄のように見えて、実は共同体としての教会こそが追い求めるべき霊性、それは筆者も牧会者の端くれとして常に経験していることです。ご期待くださいね。その他、学校紹介、入学案内、施設見学（屋上の秘蔵機材も）などなど。参加申し込みやお問い合わせをお待ちしています。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 聴講生8名を加えた68名の、後期10月から始まる学びが支えられるように。神学校が新型インフルエンザ等から守られ、在校生や家族、教職員の健康が支えられるように。
- ・ 10月15日より毎週木曜午後を開講するセミナー「ファミリーミニストリーⅠ」（担当：杉本玲子師）が祝福された学びの場となるように。
- ・ 神学校の動きが守られ、キリスト教界における使命を全うできるように。教職員15名、運営委員3名、理事5名の動きが支えられるように。多くの支援者が備えられるように。